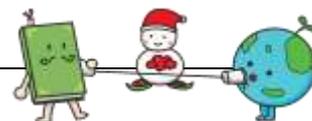


## 【社会】



### <学習内容> 「日本の歴史」教科書「歴史編」

- ◆ 「<sup>きぞく</sup>貴族のくらし」（教科書 36～37 ページ）をもとに、平安時代の様子について、取組シートやノートにまとめよう。

ことば(教科書 P37)

- (1) 平安時代は、貴族<sup>ちやうてい</sup>が朝廷の政治を動かすようになりました。教科書 37 ページを参考に、下の（ ）に言葉を入れて貴族についてまとめてみよう。

- ・一族が、代々朝廷で（ ）につき、政治を行いました。
- ・（ ）などの<sup>ぎしき</sup>儀式をとり行うことが多かったため、（ ）や（ ）などを身につけ、平安時代の文化をつくっていきました。

- (2) 教科書 36 ページの資料①「都の貴族のやしきの様子」を見て、貴族がどのようなくらしをしていたか考えて、取組シートやノートに書いてみよう。

※教科書 37 ページの本文も参考にしてみよう。

- (3) **藤原氏**について考えよう。

- ① **藤原道長**がよんだ「もち月の歌」を書き写しましょう。また、この歌は、どのような意味を表していますか。
- ② 資料③「再現された当時の食事」から、「貴族の食事」と「庶民の食事」を比べて気付いたことを、取組シートやノートに書いてみよう。

### <保護者による関わり方のポイント> ※可能な範囲でお願いします。

- ・貴族の屋敷や食事などを調べると、当時、貴族が非常に大きな力をもっていたことが分かります。教科書には、その力を「むすめを天皇のきさきにして天皇とのつながりを強くして」もちましたと書いてあります。家系図のように表してみると、娘を天皇のきさきにすることで、天皇の義父になるとともに、娘と天皇の間に生まれた子が天皇になった際には、天皇の祖父になることが分かります。